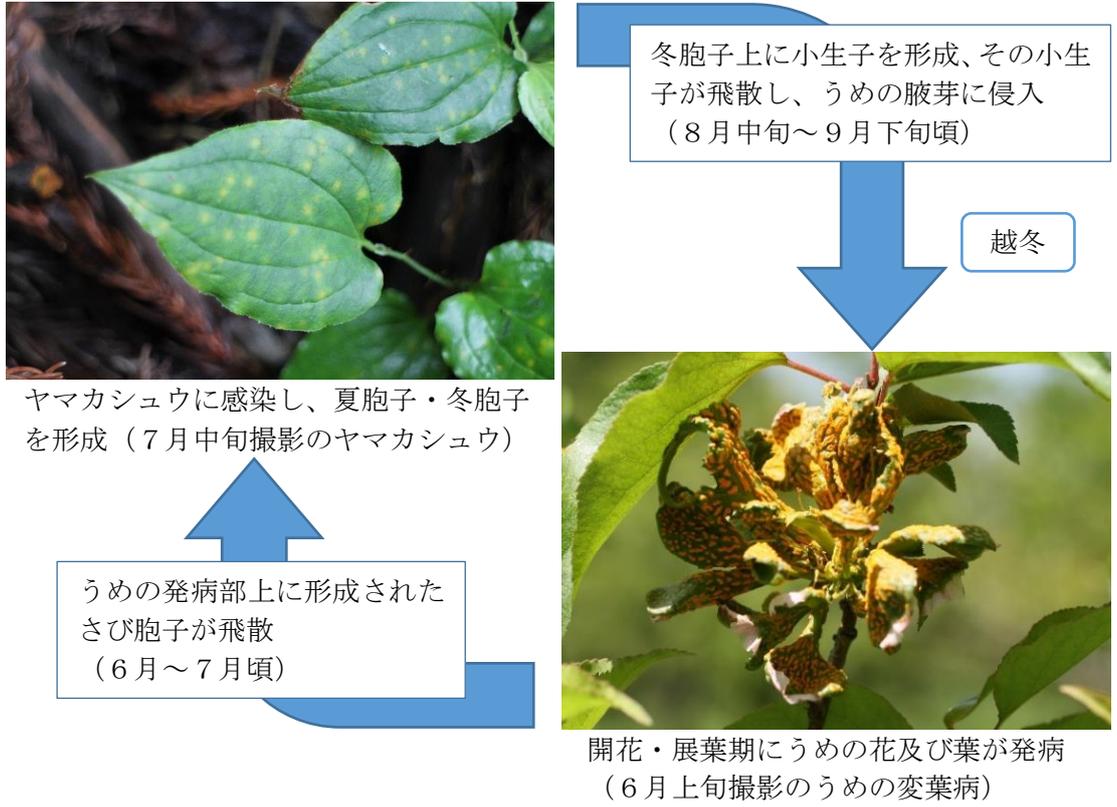


[りんご研究所 令和2年度 技術情報資料]

事項名	うめの変葉病の伝染経路とヤマカシユウの除去による防除法		
ねらい	令和元年、青森県内の一部園地でうめの変葉病の発生が目立ったが、現在、変葉病に登録のある薬剤はなく、今後の発生増加が懸念されている。うめの変葉病はヤマカシユウが中間宿主となる異種寄生性の病害であり、うめの周辺からヤマカシユウを除去することで、変葉病の発病を軽減できるので紹介する。		
技術情報内容	<p>1 変葉病菌の生活史</p>  <p>2 ヤマカシユウの除去</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) うめの変葉病の伝染距離は比較的短いので、うめ園地周辺のヤマカシユウは見つけ次第除去する。 (2) 8月中旬～9月上旬頃、発病したヤマカシユウの葉上でうめへの伝染源となる小生子(担子孢子)が形成されるので、遅くとも8月上旬までにヤマカシユウを除去する。 (3) ヤマカシユウは多年生であり、地上部のみを除去しても翌年に地下茎から芽が吹き出し成長することがあるので、地下茎も除去する。 		
期待される効果	うめの変葉病の発病を軽減できる。		
利用上の注意事項	うめの発病部は見つけ次第、摘み取って処分する。		
問い合わせ先(電話番号)	りんご研究所 県南果樹部 (0178-62-4111)	対象地域及び経営体	県下全域のうめ作付経営体
発表文献等	青森県畑作園芸試験場研究報告第8号		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 ヤマカシュウからの距離と
変葉病の発病短果枝率
(平成元年 青森りんご研県南果樹)

距離 (m)	調査 短果枝数	発病短果枝率 (%)
5	284	44.6
24	313	30.5
48	322	5.0
63	337	0.6
83	400	0.5

(注) 平成元年6月29日に三戸郡南郷村(現八戸市南郷)のうめ園地において、ヤマカシュウの自生場所から水平方向に距離別の発病短果枝率を各区2樹調査した。

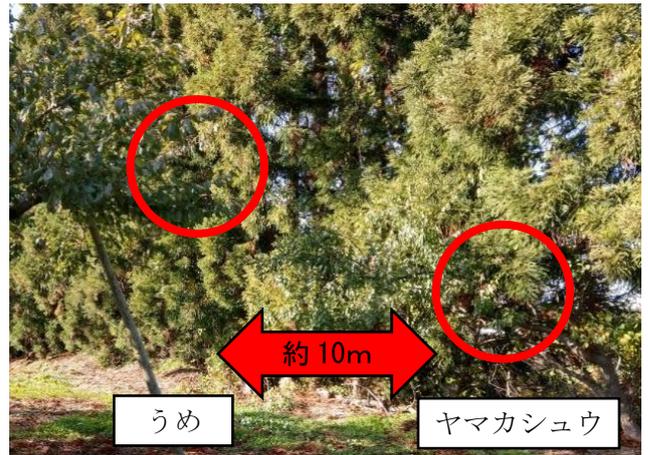


写真1 発病部位とヤマカシュウの直線距離
(令和元年 青森りんご研県南果樹)

(注) 令和元年、五戸町(県南果樹部圃場)では、ヤマカシュウからの距離約10m以内のうめの枝で変葉病の発病がみられたが、10m以上離れた部位での発病はみられなかった。

表2 ヤマカシュウ葉上の変葉病菌の冬孢子及び小生子の形成時期
(平成元～2年、4年 青森りんご研県南果樹)

調査年次	冬孢子形成堆率 (%)				
	7月下旬	8月上旬	8月中旬	8月下旬	9月上旬
平成元年	0	0	40		100※
平成2年	0	10	90※	100※	100※
平成4年	0	0	90	100	100※

(注) 1 三戸郡南郷村のうめ園地において、ヤマカシュウの発病葉を定期的に採取し、孢子堆20個について、冬孢子的形成比率及び小生子形成の有無を調査した。
2 ※は小生子の形成が認められた。

(参考) ヤマカシュウの形態



つる性で樹木等に絡みつく



葉脈は5本



茎に棘がある